

2026年3月期第2四半期決算 会社説明会（2025年12月4日開催）における主な質疑応答

登壇者：代表取締役社長 CEO 棕梨 敬介、執行役員 企画統括本部長 古堂 達也、執行役員 市場事業本部長 奥田 健一郎

No.	質問内容	回答
1	<p>国内基準行への移行により将来的に資本活用余地が1,000億円に拡大することに加え、150億円のバイバックの発表もあった。</p> <p>資本活用や株主還元の方針、特に総還元性向の考え方について、中計発表当初から変化しているか。</p>	<p>(回答者：棕梨)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資本活用の方針に変更はない。成長投資やROE向上に資する投資を最優先としており、そうした案件がない場合は、株主還元に充てるなど、バランスを取りながら対応していく。 <p>(回答者：古堂)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・株主還元について、総還元性向に関する目標は定めておらず、機動的にと考えている。 ・仮に、2025年11月から毎月15億円程度の一定額を継続して取得していった場合、今年度の総還元性向は60%程度になると試算している。 <p>(回答者：棕梨)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・補足だが、今回の自己株式取得は従来のように一定のペースで取得するというより、相場に応じて柔軟に取得したいと考えているため、「総還元性向60%～70%程度」と幅を持たせている。 <p>[2026年3月期中間期 説明会資料34ページ参照]</p>
2	資本活用先（戦略的出資）としては、どのような領域を想定しているか。	<p>(回答者：棕梨)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業価値向上ストーリーの「3つのエンジン」のうち、「金融ビジネスの高度化」とあるが、この領域に資本投下していきたい。 ・具体的には、お取引先企業の課題解決に必要な機能を補う領域への投資を検討していきたい。 <p>[2026年3月期中間期 説明会資料20ページ参照]</p>
3	2025年度計画は前年度比で減益計画となっているが、増益は目指さないので。	<p>(回答者：棕梨)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当初お約束している次年度以降を含む計画を達成することが最優先であり、そのうえで、環境に応じて増益についても狙っていきたい。
4	シップファイナンスにおける強みと課題を教えてほしい。	<p>(回答者：棕梨)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シップファイナンス需要が旺盛な営業エリアであることから、山口銀行、もみじ銀行を中心にシップファイナンスに取り組んでいる。そのため、強みとしては、各行が蓄積したデータを活用し、予兆管理を含め、船舶の運行状況等も把握できる仕組みを構築した点が挙げられる。 ・一方で課題としては、海外の船舶関連の情報をタイムリーに収集できる知見のさらなる高度化を進める必要がある。 <p>[2026年3月期中間期 説明会資料24ページ参照]</p>
5	同舟共命型ビジネスモデルを進めいく中で、YMGPをはじめとしたグループ全体の役務関連の収益はどの程度まで増加させる計画か。	<p>(回答者：棕梨)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・役務関連の収益はテーマごとに目標を設定している。YMGPを中心とした事業成長支援分野における中計最終年度の役務関連の収益は50億円程度を計画している。

2026年3月期第2四半期決算 会社説明会（2025年12月4日開催）における主な質疑応答

No.	質問内容	回答
		<ul style="list-style-type: none"> ・グループ全体としては、事業成長支援分野以外でもソリューションの提供をしていくことで利益の積み上げを図っていきたい。
6	預金等利回りの上昇が他行と比べ、相対的に高い。今後の預金獲得方針はいかがか。	<p>(回答者：棕梨)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山口銀行、もみじ銀行、北九州銀行でそれぞれ状況が異なる。北九州銀行はマーケットが厳しい中でオーバーローンのため、金利を上乗せしても預金を集めざるを得ない状況。山口県内においても競合関係により積極的に預金を取りに行ったという背景がある。 ・預金獲得は今後も重要テーマと位置づけ、引き続き店舗戦略やスマホアプリ等含め、3行でバランスを取りながら、利回りの見直しと改善を進めていく。
7	金利スワップ解約損益が前年同期比▲87億円ある。この要因を教えてほしい。	<p>(回答者：奥田)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前年同期は金利スワップでヘッジしている国内債券のロスカットを実施したため、国債等債券損益のマイナスと金利スワップ解約損益のプラスが両建てで計上されていた。本期は単純な国内債券のロスカットを実施していることから、金利スワップ解約損益だけにフォーカスすると大きくマイナスとなる。 ・説明会資料10ページ下部で説明しているが、金利スワップ解約損益の前年同期比▲87億円と国債等債券損益の同+55億円を合算すると、同▲32億円となる。 <p>[2026年3月期中間期 説明会資料10ページ参照]</p>
8	今年度は利益の上振れ分をポートフォリオ改善に充てると説明があった。逆ザヤ債券や低利回り長期債をどのように処理していく方針か。	<p>(回答者：奥田)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当面は金利動向の見通しも不透明な面があるため、主に10年超の超長期債を売却していく方針。 ・相場が落ち着けば、短期債も売却してクーポン改善も図っていきたいと考えており、相場次第で臨機応変に対応していく。
9	債券ポートフォリオの入れ替えについて、どの程度のタイムラインで目途がつくのか。	<p>(回答者：奥田)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有価証券全体としては、中計最終年度にその他有価証券評価損益をプラス転換することを目標としている。そのために、当面は株式等にバランスよく投資して利益を確保しつつ、債券はデュレーションの短期化を図りながら損切を進めしていく。 <p>(回答者：棕梨)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・可能なら中計最終年度より前倒しして評価損益プラス転換を図りたいと考えており、今年度の中間期は計画60億円に対して80億円のロスカットを実施した。

以上